

歯学教育モデル・コア・カリキュラム 令和4年度改訂版（素案）の概要

歯学調査研究チーム座長

河野 文昭

改訂素案の概要（総論）

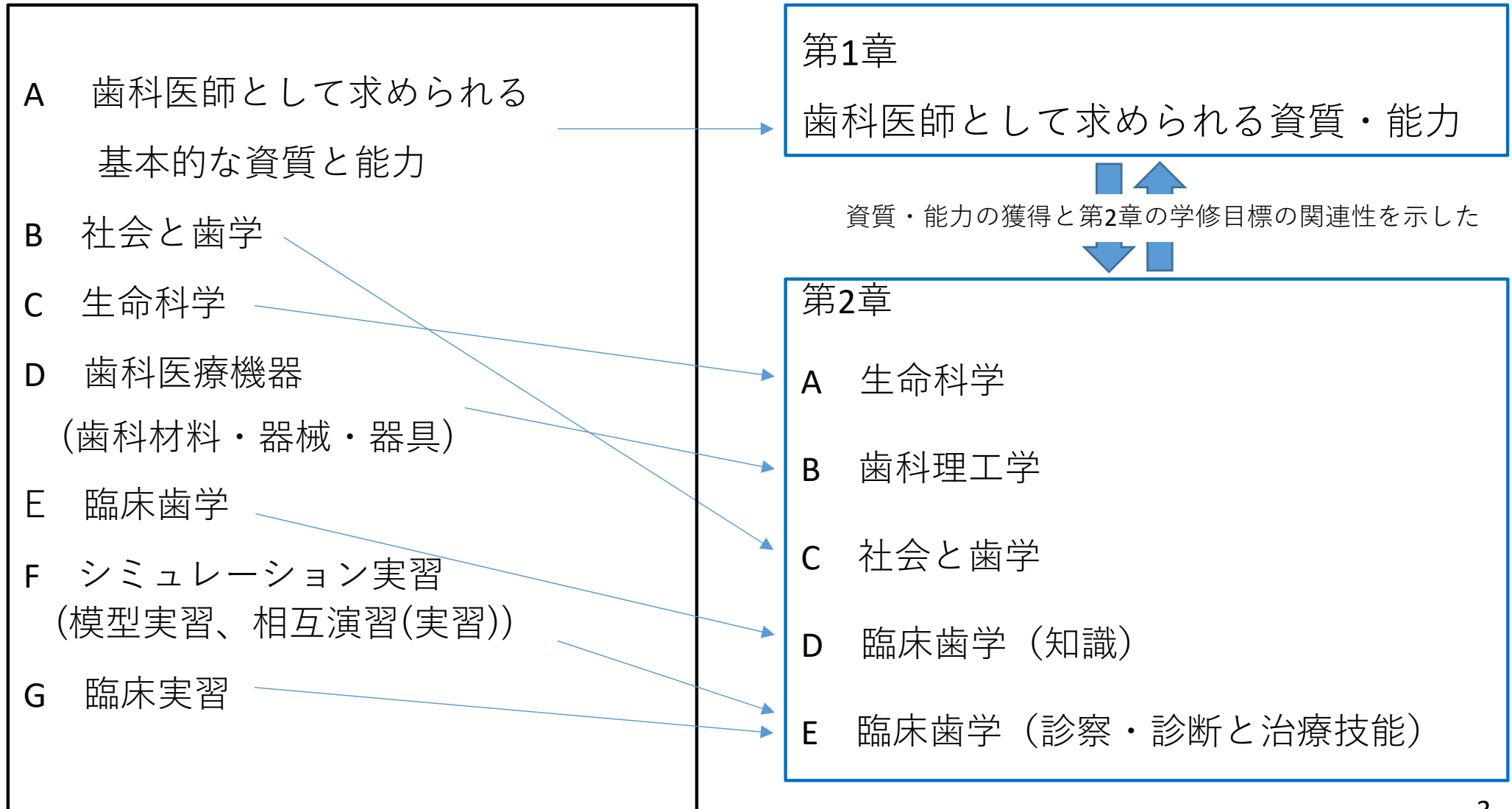
1 改訂の基本方針

- 1) アウトカム（学修成果）基盤型カリキュラムへの深化
- 2) コアカリの構成の変更
- 3) 『超高齢社会への対応等』社会ニーズを踏まえた学修目標の見直し
- 4) 診療参加型臨床実習の充実による資質・能力の向上
- 5) 医学教育・歯学教育・薬学教育の各コアカリの一部共有化
- 6) 学修目標の総量の適正性

歯学教育モデルコアカリキュラムの構成

平成28年度改訂版

改訂素案



第1章 歯科医師として求められる資質・能力

- 生涯にわたり研鑽し獲得する医療人としての資質・能力と位置づけ、将来の歯科医師像を明確に示した。
- 卒業時に具備すべき資質・能力を到達目標として記載する事によって、歯学生の歯科医師としての第一歩の道標を示した。
- 第1章の資質・能力と第2章の学修目標の関連性を表に示した。

歯科医師として求められる資質・能力

平成28年度

1. プロフェッショナリズム
2. 医学知識と問題対応能力
3. 診療技能と患者ケア
4. コミュニケーション能力
5. チーム医療の実践
6. 医療の質と安全管理
7. 社会における医療の実践
8. 科学的探究
9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢

改訂素案

1. プロフェッショナリズム
2. 総合的に患者・生活者をみる姿勢
3. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢
4. 科学的探究
5. 専門知識に基づいた問題解決能力
6. 情報・科学技術を活かす能力
7. 患者ケアのための診療技能
8. コミュニケーション能力
9. 多職種連携能力
10. 社会における医療の役割の理解

平成28年度版の「A 資質・能力」の学修目標は、第2章に移動した。

第1章 歯科医師として求められる基本的な資質・能力

1. プロフェッショナリズム

資質・能力

人々の命と健康を守るために、人間の多様性に配慮し、人間性を尊重しつつ、歯科医師の職責を十分に自覚し、利他的な態度で医療に関わりながら、歯科医師としての道を究めていく。

説明文

- 1) 歯科医師としての職責を理解し、倫理観、責任感を持って行動できる。
- 2) 患者、生活者の心理的、社会的要因や社会背景に配慮し、尊厳を尊重し、利他的、誠実、正直に行動できる。
- 3) 社会規範はもとより、歯科医師法および関連法規、歯科医師に求められる規範・倫理を遵守できる。
- 4) 自己の知識、技術、態度を恒常的に評価し、自己主導型学習を行い、自己評価能力を高めながら、常に自己の向上を図ることができる。
- 5) 医療従事者としてセルフマネジメント能力（レジリエンス、ストレスマネジメント）を養うことができる。
- 6) 同級生や後輩、同僚、チーム構成員に対して助言、指導ができる。

卒業時の到達目標
(マイルストーン)

第2章 A 生命科学

- 学修の順位性を考慮して、大項目の順番を見直した。
- 学修の目的（ねらい）を見直し、「臨床歯学」の学修の基盤となることを示した。
- 全ての学修項目は、表現の抽象度をできる限り統一した。
- 「社会と歯学」「臨床歯学」との重複を検討した。

第2章 B 歯科理工学

表題を平成28年度改訂版「D 歯科医療機器（歯科材料・器械・器具）」から「B 歯科理工学」へと改めた。

- 学修の目的（ねらい）を見直し、学修の必要性を示した。
- 学修項目を「B-1 材料の基本物性」「B-2 歯科用材料」「B-3 歯科用機器」の3項目とし、記載を充実するとともに、昨今のデジタルデンティストリーの普及に応じて学修目標を追加した。

第2章 C 社会と歯学

平成28年度改訂版「A 資質・能力」の学修目標をC領域に移動して、見直した。

- 「C-6-3) 保健医療情報リテラシー」を追加した。
- 領域に横断的に記載されていた法律・制度関連の学修目標をC領域にまとめ、整理した。
- 平成28年度改訂版「B-2-3) 歯科による個人識別」を「C-4-4) 法歯学」と改め、新しい学修目標を追加した。
- 学修目標を見直し、削減をした。

第2章 D 臨床歯学（知識）

- 学修の目的（ねらい）を明示した。
- 平成28年度改訂版の「E 臨床歯学」「F シミュレーション実習（模型実習・相互演習（実習））」「G 臨床実習」の学修目標を大幅に見直して、「D 臨床歯学（知識）」「E 臨床歯学（診察・診断と治療技能）」と表題を変更し、学修目標の整理した。
- 項目立ては、診療の一連の流れに準じたものにして、「D-1 診療の基本」「D-2 基本的診察、診断技能」「D-3 頭頸部領域の正常と異常」「D-4 診療記録の整理と治療計画の立案」「D-5 基本的臨床技能（各論）」「D-6 多職種連携、チーム医療、地域医療」の順とした。

第2章 D 臨床歯学（知識）

- 「D-2 基本的診察、診断技能」を追加し、「F 臨床実習」にあった知識の学修目標を移動して、加除修正した。
- 「D-2-6) 病理組織検査を用いた診断」「D-2-7) 基本的診断（臨床推論）」を新規に追加し、検査、診断の学修目標を充実した。
- 治療法については、「D-5 基本的臨床技能（各論）」にまとめた。
- 現在の医療の状況を鑑み「D-6 多職種連携、チーム医療、地域医療」の表題に改め、医科との連携だけに留めず、他の医療専門職を含めた協働として学修目標を追加した。

第2章 E 臨床歯学（診察・診断と治療技能）

- 平成28年度改訂版「F シミュレーション実習（模型実習・相互演習（実習）」「G 臨床実習」を統合し、項目を「D 臨床歯学（知識）」の中項目、小項目をあわせることにより、学修者、教育者にわかりやすくなるように工夫した。
- D領域で学修した内容をE領域で、シミュレーション実習を経て、診療参加型臨床実習で経験することを前提として学修目標を見直した。
- 臨床技能の学修目標は、卒前教育（コアカリ）と臨床研修（歯科医師臨床研修の到達目標）の連続性を考慮して、見直した。

第2章 E 臨床歯学（診察・診断と治療技能）

- 「E-1-1) 医療安全・感染対策」では、個人用防護具の着用、医療廃棄物の処理の学修目標を追加した。
- 「E-2 基本的診察・診断技能」では、超高齢社会に対応するために、診察・検査、全身状態の把握、基本的診断（臨床推論）の学修目標を充実した。
- 「E-3 症候・病態からの臨床推論」を追加し、臨床歯学の知識の統合を図る学修目標を追加した。